

いつもそこだけを

いつもそこだけを残しておかう  
私は見ないやうにしよう  
お前の歴史の中で  
もりあがるやうなはげしいたみ

お前の手はかくさうとしてゐる  
私の手はお前の手をはねのけて  
お前の苦しさうな表情を  
見つめておいてから お前の手にかはる

私たちに愛いふものが  
通ひはじめるのは いつも  
そのあとからだつた

かけひのかけられたやうに  
私の中にお前が やがては  
お前の中に 私が 音たてて流れるのだ